

## 第12回ベイタウンまつり (5月16日) ガイド・マップ

### バレンタイン通り5番街前

こどもサイクリリサイクル  
盲導犬とふれあおう!

模擬店とフリーマーケットの一部、  
外車展示もこちらです。



こどもサイクリリサイクル



雨天の場合は順延です。9:00からまつりの開催  
時間中は会場内への車の進入は禁止です。

### イベントひろば

- 10:15～ 「M☆Splash!」(約25分)
- 10:45～ 「ダンススケッチ」(約25分)
- 11:15～ 「幕張Heart'S」(約25分)
- 11:40～ 「M☆Splash!」(約25分)
- 12:30～ 打瀬子供ルームダンス
- 12:50～ 「幕張Heart'S」(約25分)
- 13:20～ ハワイアンダンス・飯田
- 13:50～ MAKUHARI・ミルクートワラズ
- 14:15～ ハワイアン・岩尾
- 14:40～ 「ダンシングテキサス」(約20分)
- 15:05～ ハワイアンバンド・フラダンス・岩尾

### フードエリア

模擬店が出店し、丸テーブルと  
椅子を80席設営します。  
バーベキューはできません。

### フリーマーケット (プロムナード)

コロラド前～11番街前  
バレンタイン通り5、6番街前  
150店が出店します  
出店される方は商品を午前8:50までに搬入  
してください。

### 模擬店

やしそば、カレー、  
ポップコーン他34店

### ベイタウンニュースからのお願い

第12回ベイタウンまつりのスナップ写真を募集しま  
す。採用分は来月号のベイタウンニュースに掲載さ  
せていただきます。お子さんやお友達との記念にど  
うぞ。メールでベイタウンニュース松村  
(mazmbtn@yahoo.co.jp)までお送りください。

### ハーモニーフェスタ

開場13:30 開演14:00 雨天でも開かれます  
場所:コア音楽ホール  
出演団体:ジュニアコーラス「フェアリーズ」  
混声合唱団「コア・チェンバーシンガーズ」  
女声合唱団「瀬音」+混声合唱団「GAFU」  
特別ゲスト出演:合唱塾「千葉バツハ合唱団」

### コアの茶席 (立礼席・)

時間:10:30～15:00  
参加費:100円(お菓子つき)

### きらら・フラワーアレンジメント

時間:10:00～11:30  
場所:コア・工芸室  
参加費:一人500円

### わくわくおはなし会～紙芝居特集～

“一休さん”・“アンパンマンシリーズ”・“うなぎにきいて”ほか  
場所:コア正面入口右手のウッドデッキ広場  
時間:①13:00～ ②15:00～ の2回 (各30分)  
主催:わくわくお話し会



# H7 街区および中学校についての住民説明会

先月号で紹介したように、去る4月11日(土)、H7 街区開発計画と打瀬中学校の教育環境についての住民説明会が千葉県企業庁と千葉市教育委員会主催で、開催された。【板東】

会場は、できるだけ多くの人に打瀬中学校を見てもらいたい、という配慮もあり、打瀬中学校の体育館で行われた。土曜日のやや早目の時間(9:30～)ということもあってか、住民の集まりはあまり良くなかったが、それでも延べの参加者は100名を超えた。

説明会では、まず千葉市教育委員会の方から、『打瀬中学校の別棟校舎・第二グラウンドの整備について』ということで、第二中学校を設けるのではなく、現打瀬中学校を増設することで過密問題を解消する具体策が提示された。

千葉市教育委員会により用意された資料で示される校舎整備の基本的考え方は以下の通りだ(原文のまま)。

- ・生徒数の増加により不足する教室等を仮設校舎として増設する。
- ・増設にあたっては、打瀬中学校がこれまで取り組んできた「教科センター方式」による学校経営を継続できるよう、教科ごとのまとめ「教科ゾーン」と学年ごとのまとめ「学年スペース」の機能を持つ別棟を整備していく。
- ・現在共用している特別教室(木工・金工室、調理・被服室)は分離し、別棟で整備していく。

なお、「教科センター方式」別棟校舎には1学年分の教室数が整備される。これにより、現在24学級までの対応だったものが、33学級程度まで対応可能となる。また、別棟校舎を現在の用地内(グラウンドおよび駐車場用地)に設置するために、「第二グラウンド」を、道路を挟んだ向かい側の空地(「みらい保育園」の隣接地)に整備することだった(先月号既報の通り)。ただし、「第二グラウンド」増設については、あくまでも千葉県企業庁がグラウンド用地を供出することが前提であり、現時点ではまだ企業庁から確答がもらえていないとのことであった。

過去2回の説明会でも、住民としては元の計画通りH7街区用地に第二中学校を設置す



主旨説明を行う「中学校問題とベイタウンの土地利用を考える会」代表の吉峯氏(アバンセ在住)。

ることを求める声が多かったが、中学校増設については千葉市の『千葉市学校適正配置方針』で定める「通学区の調整が困難な場合は、30学級までは特別教室の改修や仮設校舎の設置を行う」「長期にわたり大規模の状況が予測される場合は、増築を検討する」を根拠に一蹴された形だ。すなわち、千葉県企業庁が計画する現在の建設計画(世帯数増の見込み)と、これまでの統計(世帯当たりの児童数/進学率)からの推計で、最大規模となると予測される平成27年においても、中学校生徒数は1,046人で、28学級にとどまることから、上記の“30学級以内”の条件をクリアすることが根拠とされている。

ただし、この根拠については、説明後の住民からの質疑でも、「これまでの対象生徒数に対する打瀬中学校への進学率68%を前提にするのはおかしいのではないかと逆に過密で教育環境として好ましくないため進学率が低いのではないかと(記者注:その後の質疑で、最新の進学率は64%に低下している事実も示された。なお、千葉市全域の公立中への平均進学率は85%とのこと)」「全生徒が進学したいと思えるようなサービスを提供し、全生徒を受け入れる体制を作ることが、学校の義務なのではないか(この時、場内大拍手)」といった声が挙げられた。しかし、この論点については、過去2回と同様全くの平行線で、千葉市教育委員会としては、“規則を変えてでも対応する”という選択肢はないようだ。

もう1点の論点として、各教科用の教室とホームベース(ロッカーなどを含む)を必要とするため、通常の教室と比べてスペースを多く必要とする「教科センター方式」に拘り



続ける必要があるのか?という声もあるが、「14年間を通して大きな成果を挙げている」という回答しか得られなかった(始めてしまったことは、変えられない?)。

また、京葉線を挟んだ向かい側の文教地区に、住戸数4,000戸の住宅建設を行うという千葉県企業庁のマスタープランが策定・公表されているが、3,000戸以上で小学校1校を、6,000戸以上で中学校1校を確保するという基準からすると微妙な戸数である。住民からは、「H7街区にマンションができてしまうとベイタウン地区には中学校増設は不可能になる。H7街区に中学校を建て、将来増えるであろう文教地区分の生徒も吸収するのが妥当ではないか?」との声も挙げられたが、「住宅供給スケジュールはこれから(未定)なので、今の方針は変えられない」との回答であった。

なお、第二グラウンドが道路の向かい側であることから、「第二グラウンドへの横断の際に事故が起こらないように配慮願いたい」という要望が出され、「協議のうえ、より安全な交通に配慮する」という回答があった。

説明会としては、H7街区開発計画についても対象であったが、打瀬中学校の話で時間を使い切ってしまう、H7街区については千葉県企業庁からの説明も、住民による質疑も行えなかった。この点については、千葉県企業庁より改めて説明の場を設けることが約束され、閉会となった。

## この問題の今後

市教委が打瀬中学校の増設について、具体的な案を出したことでこの問題を自治会連合会の下部組織として牽引して来た「中学校問題とベイタウンの土地利用を考える会」も岐路にさしかかっている。

もともと考える会はその名前が示すように、中学校を2校にするか増設で切り抜けるかという問題と、2校にした場合の予定地であったH7街区の土地利用をどうするかという2つの問題を追っていた。当初の計画通りH7街区予定地に中学校を建設すれば、2つの問題は根本的に解決することになり、考える会もそれを目標として活動して来た。しかし財政難などの理由から行政側には当初からこの解決策には関心がなく、今回打瀬中学校を増設する案が出されたことで、考える会の目標も実現が不透明になっている。

もちろんまだ増設が確定した訳ではなく、あきらめるには早いという声もある。ただこれまでの説明会や学校の見学会などの参加状況などから、住民の意識は2校建設よりもむしろ今後増設される校舎やその後の教育システムをよりよくする方に関心が向かっているのではないかと感じられる。

実際、今回市教委が示した増設案は財政難の中では校舎をプレハブではなく本校舎とするなど評価できる点もあった。また、H7街区の利用についても昨年7月の説明会で企業庁から「住民の合意をなしに開発計画は進めない」という約束を取り付けることに成功し、今後の開発に住民の声を反映させる可能性ができた。これらを考えれば考える会の活動は最近の行政との交渉ではむしろ大きな成果があったのではないかと考える。

ただそれが成果として実を結ぶかどうかは、先に示したように今後中学校の校舎増築計画や教育の中身について保護者や住民が積極的にかかわれるシステムをつくることと、H7街区の開発については高齢化問題を見据えた今後のベイタウンの生活ニーズに適應できる開発計画ができるよう、住民を交えた検討委員会のようなシステムをつくることできるかどうかにかかっているだろう。【松村】

## 新しい公民館長はこんな人

4月から打瀬公民館に新しい館長さんが着任している。秋田厚夫（あきたあつお）さん。この3月まで千葉市の登戸小学校の校長先生だった方だ。

千葉市の場合、公民館の館長は小中学校の校長先生退職者が就任するのが普通で、打瀬公民館でもこれまでの館長はすべて小学校または中学校の校長先生が退職して赴任していた。秋田先生もこの3月に教員生活をリタイアし、打瀬公民館に着任した。

学校の先生は普通退職までに10回ほど転勤があるそうで、秋田先生も教員在職中は9校の小学校に勤めたそうだ。先生が最初に教員になった頃は、まだ千葉市が政令指定都市ではなかったため千葉県の教員として船橋市の小学校に赴任した。その後政令指定都市となった千葉市の教員となり以後は千葉市内の小学校に勤務した。ベイタウンの住民は圧倒的に千葉市出身なので、中には小学生時代に秋田先生の教え子だったという方もいるかもしれない。小学校時代の先生に父となり母となった自分を見てもらうのも照れくさいかもしれないが、思いがけず出会ったら是非声をかけてみよう。

秋田先生は教員時代は体育の先生だったそうだ。スマートな体つきと静かな話し振りからはちょっと想像できなかったが、バレーボールが得意で中学生の時から大学卒業まで、ずっとバレーボールに熱中。学校の先生になったのも中学でバレーボール部の指導者にな



るのが夢で選んだ職業だったという。ところが配属されたのは小学校。実は先生が教員になった頃は千葉国体があった頃で体育の先生が大量に採用されたという。しかも当時は日本の男子バレーボールが国際大会で常勝という時代。千葉市にもバレーボール出身の先生が多く、なかなか希望通り中学の先生にならなかったという事情があったそうだ。

しかし元々子どもが好きだったので小学校の先生もすぐに馴染んでしまったという。そんな先生にとってベイタウンは子どもが多いのでとても気に入っている。「子どもが多いとやっぱり活気があっていい」そうだ。

秋田先生の趣味は草花の世話をすること。いつも手入れされている公民館の花壇はお気に入りようだ。「まだ打瀬公民館に来て時間がたっていないので、館の外をあちこち歩いてみたことはないですが、時間ができたら草花と子どもの遊ぶ姿を求めて打瀬の街を歩いてみたい」

【松村】

## スズカケの実はいつ落ちる？

ベイタウンニュースの2月号にスズカケの実のことを書いた。そのときは「スズカケの実が全部落ちる頃、ベイタウンには春が来る」などと気づいたことを書いたが、困った…。実が落ちないのだ。3月の中頃に若葉が芽吹く頃になっても落ちない。地面をよくみると1個や2個は落ちているのだが、ほとんどの実は落ちていない。そして4月。若葉の季節になり、スズカケの木は青々とした葉をつけているが、その青葉の影になりながらも沢山の実がまだ落ちないで残っている。

それどころか最近はずっと不思議なことが起きている。去年からの実が残っている枝に、新しい小さな実がついているのだ。同じ枝に二世帯の実が同居している。

さて、こうなると落ちないで残っている実も本当に去年できた実かどうか疑わしくなってきた。ことによると一昨年、あるいはもっと前の実も残っているのだろうか。

スズカケの木に実が沢山ついていることに気づいたのは今年の7月だ。さて今年の夏には昨年よりも多くの実をこのスズカケの木はつけているのだろうか。そして次の年は？小中学生の諸君。夏休みの自由研究に「スズカケの実はいつ落ちる」をテーマにしてくれないか。2、3年観察すればいい研究ができると思うのだが。

【松村】



まだ沢山残るスズカケの実。小さいのは今年できた実だ。

## ラグビーをやろう

「親子（大人と子供）で楽しむ」を合い言葉に活動している「ラグビー入門編クラブ」「打瀬ラグビークラブ」です。お父さん、お母さんと子供（街の大人達と子供達）のコミュニケーション、お父さんの運動不足解消、お子さんの運動能力の発達などに寄与できればと思います。ラグビーは、学校教育の教材としても注目されており、ラグビーの精神による「協調性」「思いやり」「責任感」など心の発達にも貢献します。また、子供のラグビーは安全性も十分配慮されており、他の競技と比べ、特別危険という事はありません。むしろ、体が接触する分、相手の痛みを知り、ルールを守る事の大切さを覚え、いち早く大人へと成長させるため安全性が高いとさえ思います。是非一緒にラグビーを楽しみましょう！大人だけ、子供だけの入会も全然OK。毎土曜日AM10:00から幕張海浜公園花時計前で練習してます。見学、体験大歓迎！お問合せ urfc@auone.jp 担当 林

## 5月のコア・イベント

5/10  
(日)

松本和子ソプラノリサイタル

場所：ベイタウン・コア 音楽ホール

開場：13:30 開演：14:00 (13:00より整理券を発行します)

入場料：1,500円(大人)、1,000円(中学生以下)

チケットはきらら(CPW)、ジャイネパール(5番街)、アトリエ キキ(17番街)で販売中です。問い合わせ：276-3878(大垣)、211-6853(松村)

5/24  
(日)

第73回ファツィオリの会

時間：9:30～11:30

場所：ベイタウン・コア 音楽ホール

フルコンサートピアノ「ファツィオリ」でのピアノ演奏、また他の楽器、歌やアンサンブルの演奏にもご利用いただけます。ご希望で非公開にもできます。申込みはいっぱいになり次第締め切らせて頂きます。最新のプログラム内容は<http://www.baytown.ne.jp/core/>をご覧ください。申し込み締め切り：5月17日(日) 連絡先：TEL/FAX211-0273(阿曾)

5/31  
(日)

花時計「ふれんどりーコンサート」

場所：ベイタウン・コア 音楽ホール

開演：14:00

懐かしい歌を楽しく歌う「花時計」のコンサートです。

合唱の他に独唱やヴァイオリンの演奏もあります。

指揮：山口正士、ピアノ：澤田仁香、ソプラノ：吉田勢子、フルート；中村信子、ヴァイオリン：澤田香萌

「わくわくお話し会」と「寺子屋工作ランド」は5月はお休みです。また6月からよろしくおねがいします。

## ベイトウン・コア図書館を考える Part II

先々に引き続き、まもなく7周年を迎えるベイトウンコアの図書館の現状と課題の第2回目をお伝えする。【金】

公共の図書館は単なるサービス施設ではなく、文化の発信基地としての役割があり、住民共有の「文化活動施設」でもある。ベイトウンの「美浜図書館打瀬分館（以下「打瀬分館」）」の快適な環境を維持し後世に伝えていく為に、今、私たちのモラルが問われている。

ベイトウンにまだ図書館がなかった頃、毎週街にやってくる千葉市の移動図書館が大人気で、貸出冊数の多さに驚く千葉市職員（図書館員ではない）の話聞いて、少し誇らしい気持ちになった記憶がある。美浜区には、高洲に地区館である美浜図書館、磯辺公民館や幕張西公民館などに図書室があるが、ベイトウン住民はそれだけでは満足していなかった。

「充実した図書館を自分たちの街の中に」という熱い思いがコア開館前の図書館研究会の活動などにつながり、さらにその熱意を受けたコミュニティコア意匠設計担当の高谷時彦氏が、現在の素晴らしい図書館を設計した。図書館は中庭と東に隣接する公園に面し、図書館全体が公園の中にあるような趣きだ。

しかし、実際に図書館ができてしまうと、そうした地域住民主導の自主的な活動も薄れ、図書館は単なるサービス施設になってしまいつつある。「私たちの図書館」という愛着の念が薄れると、どうしても無責任な利用が増えてしまうのではないだろうか。

最近利用者のマナーが悪くなったという話を耳にする機会が増えたが、図書館関係者に聞くと今に始まったことではないらしい。手荒な扱いで本が傷んだりするケースは以前からあったが、最近は、書き込みやページの切り取りがとみに増えているという。

昨年11月の読売新聞の調査記事では、2007年度に全国主要都市の公立図書館で行方不明となった本が計約28万4000冊にのぼり、被害額は約4億1000万円と試算されると報じられた。大半が無断で持ち出されたとみられ、本の表紙だけ残して中身を抜き取る手口が目立つという。

「打瀬分館」でも今年2月、約1週間かけて年に1回の蔵書点検（棚卸し）を行った結果、約7万2千冊中、約2万冊が貸出中で、千葉市全体から見ると少ないとはいえ約150冊程が無くなっていったという。

盗難防止のため、警報装置付きのゲートを設置した図書館もあるが、「打瀬分館」には導入されていない。ベイトウンではまだ住民モラルに任されており、このままの運営スタイルが続いて欲しいと願っている。幸いにも、棚卸し後の紛失図書数は昨年半分に減っているということだ。

「打瀬分館」の山田さんは「昔は、本は、手を洗ってから読むものと親から言われていましたし、ましてや足でまたいだり粗雑に扱ってはいけないものという感覚がありました。」と言う。そうだった、そうだった。小学校の図書館を初めて利用したときにまずは手を洗った記憶と、寝転がって本を読むと祖母に怒られた記憶が甦ってきた。

「打瀬分館」入口の手前のショーウィンドーには、「ひどい扱いを受けた本の数々」が「図書館 Book の悲劇」と題して展示されている（写真）。取材で図書館を訪れたとき、職員の方が破れた本を長い時間をかけて丁寧に修理している姿を見かけた。市民全体の大切な財産である図書館の本を、後世の市民のためにも大事にしてほしいと願う。

「打瀬分館」はゆったりした空間が特徴だ。閲覧スペースを広くとり、席数は限られているが、腰を落ち着けて本を読めるように工夫されている。また、バリアフリーの考え方を取り入れ、書架の間隔を1.5メートルとるので、車椅子の方もゆとりを持って人とすれちがえるようになっている。

だが、逆にこのゆとりあるスペースが裏目に出て、図書館でのマナーを守れない人を生んでいる。ベイトウンでは餅つきやお祭りなどのイベントがあると図書館来館者数が急に増えるという。これは図書館が待ち合わせ場所や休憩所として使われるためだ。本を読んだり、借りたりするために訪れるわけではないので、「図書館では静かに」というマナーが守られず、職員の注意も空しく、大人はおしゃべりにふけり、子供は声をあげて走り回ってしまっている。

問題のある人は普段の週末にもいる。子供を連れて来た親が自分の用事に夢中になり、子供から目を離してしまうため迷子が多発しているそうだ。現代の社会状況を考えると、個人の危機感を強めてほしいと思う。だが、現状を嘆いているだけでは何も改善されない。「打瀬分館」を快適で気持ちいい空間として維持し、後世に伝えていくために、ベイトウン住民の一人ひとりが節度を持って図書館を利用するよう強く呼びかけたい。

今回、図書館からお願いされたのは、「本を大切に扱うこと」は勿論、「貸出期限を守る」と「リクエスト本は取置期限内に取りに行くこと」等のルールを守ってほしいとのことだ。リクエストをしたのに受け取りに来ない人も多く、限られた職員で再連絡の電話をかけているため事務負担が大変らしい。

最後にお知らせを1つ。「打瀬分館」では月に一回、公民館の一室を借りてわらべ歌や絵本の読み聞かせを行っている。詳しくは図書館のカウンターや公民館の掲示板を参照されたい。（この稿完）

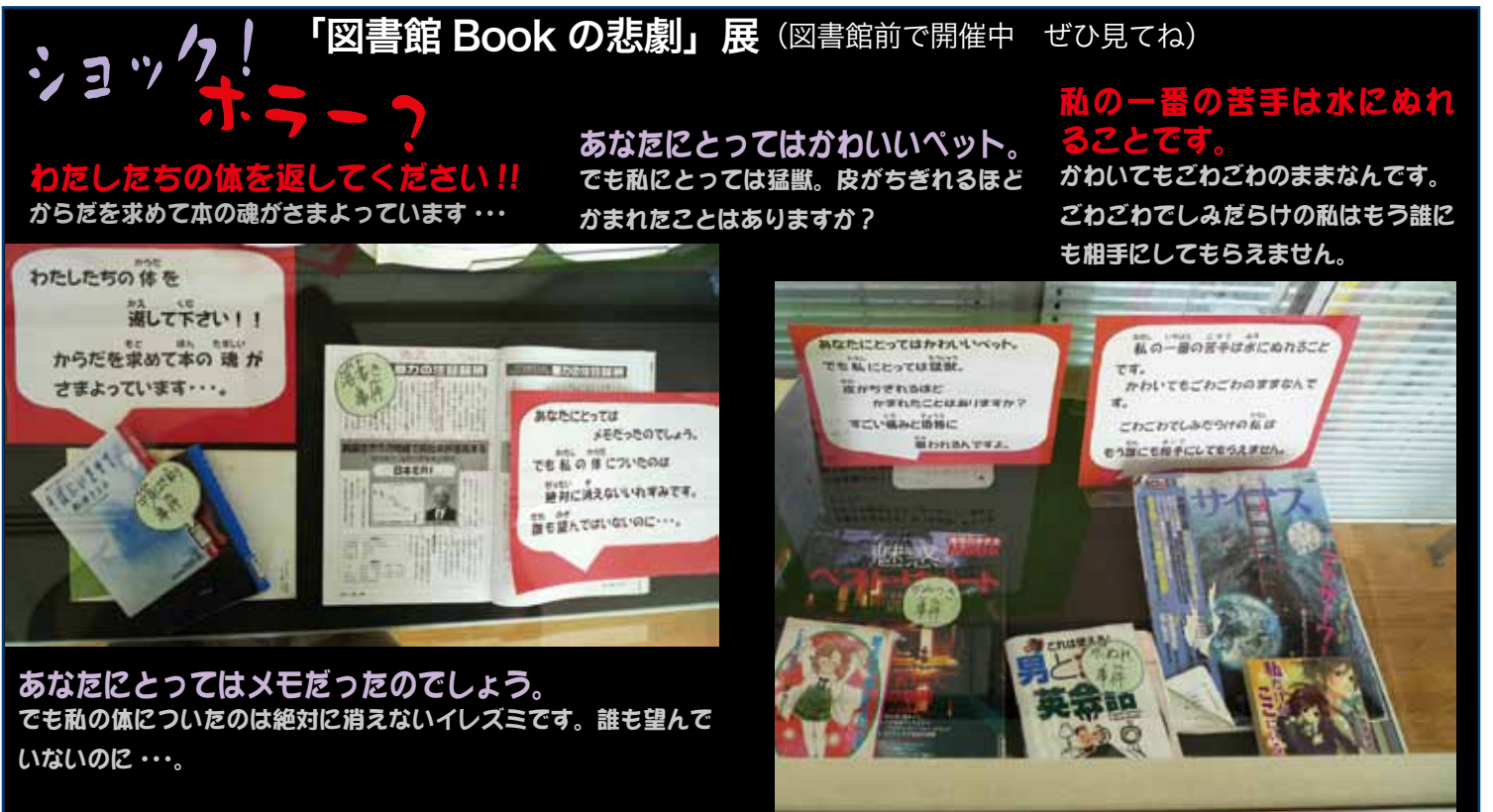
ショック! 「図書館 Book の悲劇」展 (図書館前で開催中 ぜひ見てね)

ホラー?

わたしたちの体を返してください!!  
からだを求めて本の魂がさまよっています...

あなたにとってはかわいいペット。  
でも私にとっては猛獣。皮がちぎれるほど  
がまれたことはありますか?

私の一番の苦手は水にぬれることです。  
かわいてもごわごわのままなんです。  
ごわごわでしみだらけの私はもう誰にも相手にしてもらえません。



あなたにとってはメモだったのでしょ。  
でも私の体については絶対に消えないイレズミです。誰も望んでいないのに...